

兵庫県医師会医療支援チーム（第 35 陣）「宮城県災害支援現地報告」

神戸市西区医師会 伊佐 秀夫

石巻についた日の午後 3 箇所の避難所の巡回診療を行った患者数は 7 名で、軽い風邪症状 2 名と後は 5 名の慢性疾患だった。平日の昼間、避難所にいる人は少なく、被災者は当然ですが、暗く元気がないという印象を受けた。翌日 9 時から 10 時 30 分まで石巻中学校での診療を終えて、2 か所の巡回診療に行き、12 時を回って昼食に帰ろうとしたとき、医師会が契約している運転手さんが「先生、地震をみたかい」聞いてきました。見ておきたいけど残念ながらチャンスがないと答えると、「案内してやるよ」と石巻沿岸部が一望できる日和山公園に、スタッフ 3 名とともに案内してくれました。テレビで見た光景が目の前に広がっていました。元北上川河口付近には、防波堤を乗り越えた大型船が横たわり、海岸線には円筒形の巨大な燃料タンクが、浮き上がって流され海岸の岸壁に傾いたまま引っかかっています。川を隔て、海岸近くに立っていた石巻市民病院は 3 階まで水を被り、機能を完全に失ったまま、がれきの中にポツンと立っていました。病院の近くにあった 4 階建ての看護師寮は、全体が津波に呑み込まれ多くの看護師が亡くなりました。運転手さんは次のような話もしてくれました。未だに身元不明の人が、仮埋葬してある墓地を通りがかった時、身元が判明しない一つの原因は、亡くなった人の金品を盗む輩が、身ぐるみ剥いだからだそうです。海に流されて回収された遺体は、ある場所に保管されていますが、とても見せられる状態ではないそうです。また復興事業に関わるふりをして乗り込んできた他府県ナンバーの窃盗団が夜間に横行して、女性は石巻の夜は危険で歩けないそうです。この様な被災地の現実問題を聞くと、東北の復興に至るまで、多くの時間が必要で、様々な困難を乗り越えなければならぬようです。